牛ウイルス性下痢・粘膜病持続感染牛摘発農場の清浄化に向けた取組み

三八地域県民局地域農林水産部八戸家畜保健衛生所

○荻野　心太郎　　川畑　清香

平成 28 年 3 月、管内の牛農場（A 農場：乳用種 103 頭、肉用種 15 頭、交雑種 1 頭）から県外市場に出荷された交雑種の雄子牛が、出荷先農場の導入時検査で牛ウイルス性下痢・粘膜病の持続感染牛(PI 牛)と診断。A 農場の浸潤状況確認のため、全頭の臨床検査、抗原及び抗体検査を実施。発育不良等はなかったが、乳用種 2 頭が 1 型抗原陽性で抗体陰性。3 週間後の再検査で PI 牛と確定。PI 牛の自主とう汰、同居牛全頭へのワクチン接種及び農場消毒を指導し、本病防疫対策ガイドラインに基づく新生子牛の検査を継続中。

また、A 農場に隣接する牛農場（B 農場：乳用種 110 頭、肉用種 63 頭）で全頭検査を実施し、乳用種 2 頭を PI 牛と確定、とう汰。抗体価を指標とした同居牛へのワクチン接種等を指導し、新生子牛を継続検査中。両農場とも継続検査で新たな PI 牛は確認されず、A 農場は平成 29 年 2 月、B 農場は同年 5 月に清浄化の予定。PI 牛 4 頭から分離されたウイルス遺伝子解析の結果、全て 1b 型。塩基配列の相同性から、由来が同一のウイルスであることを確認。疫学調査から、両農場へのウイルス侵入はほぼ同時期で、侵入ルートは不明だが両農場で道路を共有していることがウイルス拡散の一因と推察。PI 牛の母牛に持続感染は確認されず、母牛は妊娠中に初感染し、PI 牛を出産したと考察。本病の再発を防ぐため、管内の牛農家に対して家畜衛生情報を発行し、啓発とワクチン接種等の対策を指導。